

厳寒地での生活

中国ハルビン滞在記

1. はじめに

北海道開発コンサルタント(株)では、平成5年7月に中国「黒竜江省高速公路公司」との間に合弁会社「ハルビン北龍技術開発有限公司」を設立しました。合弁の相手方「黒竜江省高速公路公司」は、黒竜江省交通庁の組織下にあり、主要幹線道路(日本の高速道路、自動車専用道路に近い)の建設・維持管理を行う会社です。

合弁会社の設立話は、今から15年前の北方圏会議に端を発し、北海道と黒竜江省との人事交流の一環として、当社が技術研修員を受け入れたことに始まると記憶しています。



合弁会社が入っているビル

新合弁会社設立後、現地事務所の設立準備や、中国側のリーダーとなる技術職員の当社での研修などに約1年をかけ、平成6年5月下旬から、いよいよ筆者を始め当社派遣職員6名のハルビン滞在が始まりました。

開業式は、平成6年6月18日8時18分(中国では、8は末広がり縁起が良いとされ、こだわりが強い)に始まり、北海道からは会社設立にご尽力いただいた方を始めとして約30名、中国側からは約100名の来賓が出席し、盛大に行われました。



北海道開発コンサルタント(株)
交通施設部 主幹

上西 則幸

2. 黒竜江省とハルビン

黒竜江省は、吉林省・遼寧省とともに中国の東北部に位置し、黒竜江(アムール川)でロシアと国境を接しています。面積は約46万km²(日本は約38万km²)と広く、人口はわずか3,500万人です。省都ハルビン市の人口は約330万人、近郊をあわせて950万人といわれています。

ハルビン市は、北緯46度、稚内市とほぼ同緯度にあり、気候は冬寒く夏暑い典型的な内陸性気候で、年間降水量は約600mmと非常に少ない地域です。ハルビンの冬は、10月のある日急に寒気団が入り、木々が一齐に葉を落とすことに始まります。これを合図に各建物にスチームが入り、翌年の4月上旬まで長く厳しい冬が続きます。最低気温は-28℃に達しますが、雪はひと冬に4~5回しか降らず、北海道で言えば、札幌よりも道東の冬に近いイメージです。

3. 滞在記

■仕事

新会社の総勢は25名、うち技術職が20名で、経験者は5名、他は新卒で、私たちは道路と橋梁の設計を

通じて技術を習得してもらうための業務指導という立場でした。当社派遣の6名は、赴任前に1年間中国語を習ったことにはなりましたが、初めの2~3カ月は「ただの音」としか聞こえなく(これは筆者だけでも知りませんが)、「こりゃダメだ!! 中国人に日本語を教えた方が早い」ということで、会社の共通語は全て日本語で通すことになりました。

ここで活躍したのが日本で研修を受けた3名の現地職員で、彼らは通訳兼業務スタッフとして常に私たちの近くにいることになりました。中国人職員のなかには夜間の日本語教室に通う者もいますが、彼らにとって日本語は覚えやすい言葉のようで、早い者では6ヶ月で日常会話、1年で示方書がほぼ理解できるようです。

幸いにして向上心の旺盛な職員に恵まれ、4年が過ぎた現在ではOA化も進み、図面はCADで画くなど、作業環境は日本とほぼ同じになりました。業務打ち合わせもインターネットのできるようになり、開業当時と比べて隔世の感があります。

■通貨と所得

中国元は、米ドルに固定相場で、最も円高の時に

1万円が1,020元、最近では540元位です。合弁会社の社員の給料は初任給で約1,000元でしたが、一般的な平均賃金は、都市部で1,000元位、地方では500元位(共稼ぎが一般的な中国では、一家の収入は夫婦で2倍となる)といわれていますが、所属する職場・業種・職種・地位などで大きく違っており、日本とは比較にならないほど格差が大きいようです。

■社会資本整備と住宅

赴任初期には経済の高度成長と冬季アジア大会を控えていたこともあり、建設ラッシュの観を呈していました。

施工速度は日本に比べてはるかに速く、単純な500m位の立体交差(プレテンPC桁、PC杭基礎)で約6カ月、アンダーパスで1年位です。早さの要因は種々の工事規制・検査が緩いためかも知れません。

住宅は、以前は個人に所有権はなく、職場(役所・会社)が貸し与えるのが一般的でしたが、最近の住宅事情は、市場経済が進んだためか、従来の住宅の払い下げと分譲住宅(5~8階建てのマンション形式が多い)に移行してきており、職場が貸与する制度は無くなりつつあります。

外国からの駐在員は、治安の面からもホテル住まいが一般的です。幸いに私たちは、合弁相手の会社が新ビルを建てるタイミングに合い、8階に事務所、7階に会社の食堂と私たちの宿舎を構えることができました。宿舎はホテルのシングルルームのような形式で6室あり、空いた部屋を職員寮として使用し、2段ベッドを入れ、男5名、女3名の独身社員が入りました。

■生活

買い物は、衣食住の必需品は安いものの、車・輸入



ハルビン市街地風景

電気製品・ウイスキー等は日本の価格よりかなり高めです。品揃えは機能・デザイン等にこだわらなければ大体間に合います。日常の食事は、会社の食堂(会社の調理員が作る)で済ませていましたが、2カ月位が過ぎると、油・調味料・香辛料等が鼻につき食欲がなくなってきました。野菜類は日本と多少の差はあるものの大体そろいますが、海の魚は殆どなく、肉は豚・鶏肉が中心です。中華料理はフライパン一つで何でも調理するので、日本人にはすべてが同じような料理に思えてくるのです。長期滞在者にとって、食事が最も大きな問題の一つかもしれません。

赴任当初は、スポーツ施設・娯楽施設が殆どなく、また、自分の車もないため、休日には時間を持て余したものでした。その代わりに、カラオケと夜總會(キャバレーと同じ)は至る所にあり、中国人に人気があります。カラオケは香港・台湾から入っているようで、「北国の春」、「昴」など日本の古い曲から最近の若者向きまで豊富にあり、店によっては日本語の歌詞も用意してあります。最近では、プールを備えたスポーツ施設が増えてきており、運動不足になりがちな我々にとって便利になりました。

ハルビン市民の冬の楽しみは、厳寒の1月中旬から2月にかけて開催される氷祭り、氷結した松花江の川面を切って作ったプールでの寒中水泳です。ハルビンは、その厳しい寒さから「氷城」の別称がありますが、市民のたくましさには頭が下る思いです。

4. おわりに

長期滞在による業務指導は一応本年8月末をもって終了しましたが、今後は必要に応じて、業務ごとに短期の出張を相互に行ったり、継続的に研修生の受け入れを行うことによって、当初の目標に近づけたいと思っています。現在は道半ばにあり、今後とも困難は予想されますが、双方で地道な努力を重ねつつ是非とも成功させたいと思っています。

松花江にプールを作り、寒中水泳風景(気温 -25°~-30°)



ハルビン氷祭り